

## 9. 第19期日本学術会議会員候補者推薦について

日本学術会議では現在組織改革が議論されており、会員選出方法が大きく変わる可能性があります。しかし、現時点では詳細は未定ですので、今回日本数学会では例年通りの手順で会員の候補者の選定を行います。

日本学術会議会員（以下会員といいます）の選出方法は、学術研究団体（以下団体といいます）から推薦された会員候補者のうちから、同じく団体から選出された推薦人が選びます。さらに詳しく説明致します。

日本学術会議は第1部から第7部までに分かれます。各部に会員の定員が決まっています。第4部の定員は31名です。各部には研究連絡委員会（以下研連といいます）が置かれ、各研連に会員の定員が決まり、研連が会員選出の単位となります。第4部は数研連（数学研究連絡委員会の略です）、統計研連、科学教育研連、情報研連など約20の研連に分かれ、数研連の定員は2名です（これらの研連は推薦制の単位としての研連で、実際に設置される実動研連の一部です）。

会員を推薦したい団体は登録をする際関連研連を決めます。選べる研連の和は3以下です。登録すると、団体ごとに推薦人の数が決まります。推薦人の数は特別大きい団体を除き、5人以下です。日本数学会の推薦人は今回は3人と思われます。この推薦人が、各学会から選ばれた学術会議会員候補から各研連の学術会議会員を選出します。複数の研連を選びますと、割り当てられた推薦人をそれらの研連に割り振ることになります。日本数学会は数研連だけを関連研連として登録しました。しかし、数研連を関連研連とする団体は数学会以外にもあります。

日本数学会だけが数研連を選んだ場合は補欠1名を加えて3名の会員候補者を推薦できますが、それ以外の場合は定員2名まで推薦できません。

会員候補者の決定は次の「日本数学会推薦学

術会議会員候補選定要綱」により行われます。なお、会員候補者および推薦人の届出の期限は2003年2月頃と思われます。

「日本数学会推薦学術会議会員候補者選定要領」の第2項により推薦したい会員があれば、11月30日（土）必着で推薦者（様式自由）を当会までにご提出下さるようお願い致します。

### 「日本数学会推薦学術会議会員候補選定要領」

1. 学術会議会員推薦における日本数学会推薦候補者の選定は会員の推薦、予備選挙および本選挙によって行われる。この選定に関わる選挙管理は理事会が行う。

2. 日本数学会会員（以下会員という）は30名以上の連名により会員を推薦候補参考者に推薦できる。ただし、各会員は2名以上の会員を推薦することはできない。

3. 予備選挙は日本数学会評議員および数学研究連絡委員を投票権者とし、会員を被選挙者とする2名連記の無記名投票によって行う。

4. 本選挙に際して、次のようにして得られた者を「会員の推薦および予備選挙による推薦候補参考者」として会員に通知する。

（イ）第2項による30名以上の会員に推薦された会員で本人が了承した者。

（ロ）予備選挙の得票上位より順次に得票を累計し、初めて得票総数の過半数に達した者と同一票数の者までの範囲から上記参考者として掲げられる事を本人が了承した者。ただしこれらの者が10名未満のときは得票上位のものから準じ本人の了承の下で補充し、10名程度の参考者を得るように努力する。

5. 本選挙は会員を投票者とし、全員を被選挙者とする2名連記の無記名投票によって行う。

6. 日本数学会推薦候補者は次の方法で理事会が決定する。推薦候補者2名（場合によっては3名）を、本選挙における上位投票者でほんのんの了承が得られたものから準じ選定する。

（補足）予備選挙、本選挙の連記投票における少数記載は有効として数える。